

 **OSS License Checked!** *Orchestrating a singler world* **NEC**

イベント概要: OSSライセンスのチェック
 オープンソース・ソフトウェア・コンプライアンス
 2016 Enterprise @ Osaka

いまだに、GPLを誤解していませんか？

2016年1月29日
 NEC OSS推進センター 総務管理

皆さんお使いのOSS/ソフトウェア	
IoT: 繋がるデバイスには、TCP/IPの実装が必要	
● 本家 * BSD *	FreeBSD Copyright (c) 1989 by BSD
● Linux *	GNU GPLv2
クラウド OpenStack	Apache License 2.0
SDN OpenDaylight	Eclipse Public License (EPL)
ビッグデータ Hadoop	Apache License 2.0
運用管理 Hinesmos, Zabbix	GNU GPLv2
データベース	
● PostgreSQL	PostgreSQL License (BSDライセンス)
● MySQL	GNU GPLv2
オフィスソフト LibreOffice	MPL 2.0

[illegible]

OSSライセンスのものの分類 4タイプ

①ソースコードの提供(Open Source) ※ GPL(OSSの代表例)

②バイナリ提供のみ(Open Source) ※ LGPL(OSSの代表例)

③ドキュメントに限定(Open Source) ※ パナソニックの「パナソニック」

	OSSライセンスタイプ	OSS提供範囲	その他の特徴
OSS 製品	OSタイプ	バイナリ提供のみ ※ 著作権者 ※ 権利者	ソースファイルはほぼ 公開されていない ③
	MPタイプ		
	LGタイプ	バイナリ提供のみ ※ 著作権者 ※ 権利者	ほとんどのバイナリ・ソースファイル が公開されている ②
	GPLタイプ	ソース・バイナリ提供 ※ 著作権者 ※ 権利者	ほとんどのバイナリ・ソースファイル が公開されている ①

※ GPLタイプは、**Network Software Foundation License**、
 ※ MPL、Public Domain License
 ※ LGPL、Open Source License
 ※ GPL、GNU General Public License

① ② ③

GPLでOSSすべてを語るのはいい加減過ぎる

OpenOffice.org 3.0.1のダウンロードと特徴

GPL

OSSの権利はソフトウェアの自由な利用を前提に認められることにより、そのためにソフトウェアの権利を侵害する可能性があることとなる

BSDライセンスのGOSMACで「改変の自由」を失った経験から生まれたのが、(改変の「自由を保障」するGNU GPL、

GNU/GPLの基本理念は、

OSSの基本理念」と呼べています。

© 2004 C Corporation 2004

http://www.c-corporation.co.jp

NII

GPLを思想的に考えすぎているのか？

- GPLのOSSがすべて
- フリーソフトウェア運動に賛同している
- わけではない。
- GPL自身、賛同していない人のためにある。
- だから、契約と考える？？？

GNU GPLを作成した人達が、
「GPLは契約ではない」
と繰り返し述べていたことを
ご存じでしょうか？

2001年

 **GNU Operating System**
Sponsored by the [Free Software Foundation](#)

About GNU Philosophy Licenses Education Software

Enforcing the GNU GPL

by [Eliot Moden](#)
10 September 2001

<http://www.gnu.org/philosophy/enforcing-gpl.html>



© 1999 Free Software Foundation, Inc.

Free Software Foundation

NEC

Licenses are not contracts:

ライセンスsは契約ではない

では、なんだ？

2006年 GPLv3策定中の国際会議のQ&Aでの回答
<http://lists.gnu.org/archive/html/gpl-discuss/2006-07/msg00001.html>

a licence is a unilateral permission,
 not an obligation,
ライセンスは、一方的な許諾であり、
(契約などの) 債務などではない

2006年、Heather Meeker 弁護士が、
「アメリカだけじゃないの？著作権法って」
:米国法曹協会 科学技術部会 OSS委員会共同議長

**Only in America? Copyright Law
Key to Global Free Software Model**

 The existence and threat of legal systems without ethical constraints is a reality. In the United States, the copyright system is a highly useful interpretation, in a narrow, literal to the free software models.

<http://www.linuxinsider.com/story/50421.html>



田原 貴徳氏

Richard M. Stallman氏の反論

<http://www.gnu.org/philosophy/no-ip-ethos.html>
 Don't Let 'Intellectual Property' Twist Your Ethos
by Richard M. Stallman
 June 21, 2008

12

© 2012 Information



CC BY-SA

Copyright © 2012

NEC

Most free software licenses are based on copyright law,
and for good reason:

ほとんどの自由ソフトウェアの
ライセンスは、著作権法と、
正当な理由によりに基づいている：
つまり、

18 © NEC Corporation 2004

Copyright law is much more uniform among countries than contract law, which is the other possible choice.

著作権法は、
国家間で、契約法や他のありうる選択より、
非常に均質である。

12 © MIC Copyright 2014

There's another reason not to use contract law:
It would require every distributor to get a user's formal
assent to the contract before providing a copy.
To hand someone a CD
without getting his signature first would be forbidden.
契約法を使わないもう一つの理由は、コピーを提
供する前に契約へのユーザーの正式な同意を得る
ことを、あらゆる頒布者に要求するから。彼のサ
インをもらうことなく誰かにCDを渡すことは、
禁じられている。

What a pain in the neck!

うんざりする。

2003.8.20 SOFTICE の研究報告会報告
「オープンソース」ソフトウェアの現状と今後の課題について

● 研究の経緯 (7/17, 7/17)

「GPLは契約ではないと考えることも可能である。しかし、さらにこれはFAQにおいてGPLは著作権に基づきライセンスである」と断言されていることまで考えた場合、

GPL作成者の意図は「ユーザーがGPLソフトウェアの複製・頒布を許する許諾契約である」と考えたことは、この場合、GPLは使用許諾契約であるに違いないであろう。

「ライセンス＝契約」という先入観？

12 © 2003 CopSpectrum 2004

世界中の弁護士がこの勘違いをしているのか？

実は、弁護士は、最初に「論議する命題を認識」していた

Only in America? Copyright Law Key to Global Free Software Model

 The existence of legal systems without robust enforcement (copyright, in countries where software development is a highly robust enterprise, is a serious threat to the free software model.

「enforcement」、つまり、違反した者に罰金を課す（強制執行）されられるか否か、という命題が焦点と勘違っていた模様。

2009.4 GNU GPLv3 解説書「GPLv3逐条解説」(IPA)
第3章 第3条 2. **GPLは“enforceable”か** (p.47,159,258)
 ・ “enforceable” (執行可能性) とは GPL の違反者に対して、
 GPL の定める義務の履行を強制できるときをいふことである。
 例えは、GPL の違反者に対して訴訟を提起した場合において、
 裁判所が違反者に対して、GPLv3 第6条第1(ラブラブB)項の
 命じらる行為、ソースコードを公開せよ」とか・・・
 法執行することができると・・・という問題である。
 ・日本においてGPLは有効な契約と認められる可能性が高く、
 したがってソースコードの提供等を判決において命じることが可
 能と考えられる。

つまり、「GPLは契約か？」という命題に対して「契約である」とIPAの報告書は述べているのではない。

「GPL違反した紛争(裁判)になった場合、ソース開示を強制執行させられるか？」という命題に対して、

「日本では、GPLは契約と解されて、強制執行させられる可能性が高い。」と述べているに過ぎない

ところで、

企業としては

- 違反した後の紛争のことより、
- 違反しないように、理解するのが大事
- ではないでしょうか

弁護士は(1/2) 権利確認『はじめてのアメリカ法(補訂版)』有斐閣, 2013

弁護士は紛争についての専門家 (P40)

契約書を精査することにより紛争を防ぐ

「GPL違反したらソース公開を強制させられるか」という命題を問われれば
紛争を避けて見解を述べたであろうことは容易に想像できる

32 © MIT Corporation 2004

でも、
弁護士は法律の専門家だよな
GPLの前提としている著作権法についても
弁護士に相談するものだよな！？？

東京大学大学院教授の著書に記載された奇撃の事実！

弁護士とは 横田誠雄「はじめのアメリカ法(補訂版)」 有斐閣、2013

弁護士とは法律を知っている人ではない (P29-40)

- 法律の素人は、弁護士が何でできていると考えがちです。
- そんなことはあるわけがありません。
- 六法全書にある法律の条文をすべて知っていると考える人はいません。それは二重の意味です。
- そんなことは不可能だという意味での間違いと。
- 条文に知っているも法律を知っていることにはならないという意味での間違いです。

裁判は「**裁判官**」は「**はじめてのアメリカ**」(補訂版) 有斐堂、2013

裁判は必ずしも真相判明の場ではない (p175)

- 日本の裁判員制度の今後の可能性について
- 裁判は必ずしも真相判明の場ではないことが知られるようになること。

●法律の業人は、「法的にどうなの?」

●つまり「判例は?」と聞かへ。

●判例で真実が究明されて、唯一の真実と思ひ違いしている

皆さんが、気にするのは、違反した後の紛争か？
違反しないための理解か？

- GPLのOSSを含む商品を頒布・販売すると、「ソースは？」と言われる。
- GPLのOSSを含む商品を頒布・販売すると、ソース開示義務が生じる契約と考えるのか？
- GPLのOSSを含む商品を頒布・販売するには、ソース開示という条件を満たさなければ、他人の著作権の侵害、GPL違反ではない、と考えるのか？

皆さんが、気にするのは、**違反した後の紛争か？**
違反したための理解か？

お店から商品を持ち出すと、「お金は？」と言われる。
お店から商品を持ち出すと、お金を支払う義務が生じる契約と考えるのか？

お店から商品を持ち出すには、お金を支払うという条件を満たさなければ、他人の所有権の侵害、万引きടかけない、と考えるのか。

後者でしょ！

© NEC Corporation 2004

だから

- 出荷時に何もしないで、(出荷時に契約が成立と考え)
- 「GPLでも要求されたら、ソース公開すれば良い」
- との理解も、間違い
- これで、
- 出荷時に既に著作権侵害している

無断で商品を持ち出しても、
「お金を要求されたら、出せばいい」
という理解と変わらない

58 © NEC Corporation 2004

著作権は、他人に無断で**利用**されない権利

①著作権は、特許権、商標権などと同じく、知的財産権の一つ
 ②「知的財産権」として、知的所有権として扱われる
 ③「知的財産権」として、他人に無断で**利用**されない、という権利

著作権

知的財産権

産業財産権

特許権
 実用新案権
 意匠権
 商標権

「他人に無断で利用されない権利」として扱われる
 この行為を大まかに「**盗用**」と呼ぶ

使う人はこうしなさい、という
 ルールではないことに注意!

The diagram illustrates two scenarios of copyright infringement based on GOS (General Open Source) license conditions.

Scenario 1 (Top):

- A person (**あなた**) receives a source code package (**配布(ソース)**).
- The package contains a notice: **このコードはGOSでライセンスされています。** (This code is licensed under GOS).
- The person performs a binary build (**バイナリビルド**).
- This action results in **著作権侵害** (Copyright Infringement), indicated by a red hatched box.

Scenario 2 (Bottom):

- A person (**あなた**) downloads a GOS package (**download(GOS)**).
- The package contains a notice: **製品にGOSを公開する権利が保証されています。** (The right to publish GOS in the product is guaranteed).
- The person publishes their own software (**自分のソフトウェアを公開**).
- This action also results in **著作権侵害** (Copyright Infringement), indicated by a red hatched box.

Conclusion:

これを許諾する条件がGOSライセンス条項です。一平のソフトのソフウェア・ライセンスとは、許諾する行為が違う。

© 2006 Kenji Saito
http://kenjisaito.jp/

[illegible]

GPLは、「契約」ではなく、「著作物」のライセンス しなやかにみなす事がよくてよいのではない。		
① 譲渡が通ずる。		
② 譲渡と同等であるだけでなく、他人の権利を侵害しないようにする。		
③ 他人の権利行使をも許される権利を満たすようにする。		
他人の権利	両側面	著作権
他人の権利の行使	既知の通り出し	GPLの著作権の行使(複製)
行使/許される条件1	現金支払い	ソースの提供
行使/許される条件2	署名 (パテント、フェア・ユース!)	権利行使する者の 権利の行使
条件を欠かす行使	返却(1/3引き)	著作権侵害(GPL違反)

